

令和4年度地震・津波防災訓練 (内閣府・愛知県・常滑市)

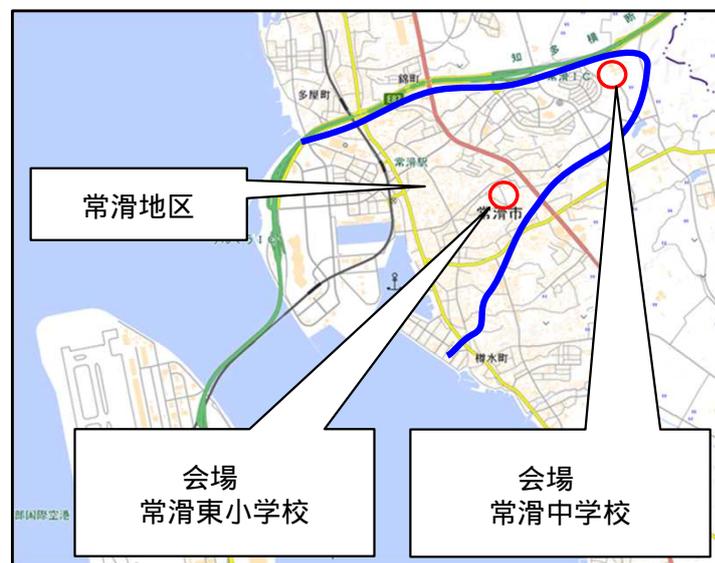
実施報告書 (概要版)

愛知県常滑市について

愛知県常滑市は、愛知県知多半島の西海岸に位置し、東西6キロメートル、南北15キロメートル、海岸線19.8キロメートルの南北に細長い街である。人口は約58,000名であり、北に知多市、東に阿久比町、半田市、武豊町、南に美浜町に隣接し、気候は年間を通じて温暖で適度の雨量があり、海、山の幸に恵まれている。また、平安時代末期ころからの「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、日本六古窯のひとつとされている。

平成26年3月には、愛知県内38市14町2村に含まれる形で「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」に指定されている。

常滑市においては、市庁舎の高台移転による防災機能の強化や同報系防災行政無線の整備等防災基盤の整備に努めるとともに、市民に対し「とこなめ防災ガイド」の配布や防災講座・防災訓練の実施により防災意識の高揚を図るなど、意欲的に防災活動に努めている。



出典：国土地理院

訓練概要

訓練想定：令和4年11月6日（日）午前9時、愛知県沖から四国沖を震源とする巨大地震が発生し、常滑市においても最大震度7を観測、愛知県外海及び伊勢・三河湾に「大津波警報」が発表された。

実施日時：【訓練実施前WS】令和4年10月15日（土）09:00～12:00

【訓練】令和4年11月6日（日）08:45～12:00

【訓練実施後WS】令和4年12月11日（日）09:00～11:50

主催：常滑市、愛知県、内閣府

参加者数：約1,000名

参加機関：常滑地区自主防災組織、医療関係機関、市消防本部、愛知県警察、常滑市

訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練等

訓練の特色：住民参加による体験型の実際的な訓練

訓練の成果

【成果】

○訓練前ワークショップ、津波避難訓練及び訓練後ワークショップの接続により、常滑地区内の各区の特性等を把握したうえで、各区别的避難場所の確保、避難経路の選定・確保（再確認）、各区毎の避難計画の作成、災害時要支援者に対する支援などにおける課題を確認・共有することができた。また、住民が協力し地域の防災力を高めることの重要性が理解された。

津波避難訓練では、各津波一時避難場所に避難するまでの一連の行動は、整然と行われ、特に、地震発生後における同報系防災行政無線による避難の呼びかけによる避難行動、津波一時避難場所における安否確認及び市への報告などの情報伝達は確実に実施され、各区における防災意識の高さがうかがえた。津波避難訓練後、住民参加型の訓練会場である常滑東小学校において、実際に各避難所において使用が予期される備品等を用いた避難所開設訓練が実施され、参加者は終始熱心に訓練に取り組み、備品の組立や操作の実体験ができたことにより、各種取扱に関する理解が促進された。

本訓練の運営にあたって、市職員は統制ある行動を取り、訓練の円滑な実施につながっていた。

【課題】

避難所開設訓練（常滑東小学校）においては、各区の自主防災組織を対象として行われたが、今回の実体験をもとに各区における一般住民への普及が期待される。今後、一般住民のより幅広い参加を得て、更なる地域の防災力の向上に資することが期待される。

10月15日(土) 09:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

- ・講義では、地区防災計画を検討する足掛かりとなることを期待して、災害対策基本法等の概要、過去の災害事例と教訓、災害対応の原則、他の地区防災組織の取組みなどの紹介を行った。
- ・ワークショップにおいては、「課題の抽出・共有」を焦点に各地区の拡大地図を用いて、避難場所と避難経路の確認、災害時要配慮者の把握などを行い、参加者の理解を深めた。

講師
（三重大学川口准教授）



ワークショップの様子



11月6日(日) 08:45～12:00 実動訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練）

- ・11月6日（日）午前9時に巨大地震が発生し大津波警報が発表された想定の下、常滑地区においてシェイクアウト訓練、津波避難訓練及び安否確認訓練等を行った。
- ・住民参加型訓練会場である常滑東小学校では、避難所を開設し、防災備蓄資材（段ボールベット、パーティション、仮設トイレ等）の取扱いを確認するとともに、防災関係機関により医療救護所、給水所、炊き出し支援所などを開設し、運用の手順を確認した。

シェイクアウト訓練



一時避難場所等への津波避難訓練



安否確認訓練



避難所開設訓練



避難所開設訓練
（仮設トイレの組立）



給水施設確認



12月11日(日) 09:00～11:50 訓練実施後ワークショップ

- ・地震津波防災訓練全般の振り返りを行った後グループ毎にディスカッション及びグループ代表者による発表を行い、特に津波避難に関する現状の問題点及び今後の改善の方向性等について、認識の共有を図った。また講師による総括アドバイス、並びに南トラ臨時情報に関する情報提供を行い、地震津波防災について、より一層の理解を深めた。

ワークショップの様子

